

豊橋・ナガバノイシモチソウ自生地

県天然記念物指定に喜び

豊橋市佐藤町の幸公園に、天然記念物に指定されることある「ナガバノイシモチソウ」を受け、保全活動に携わった「ウ自生地」が六日付で県天 てきた市関係者らの間で喜



自生地に咲くナガバノイシモチソウ＝豊橋市佐藤町の幸公園で

びの声が上がった。

指定されるのは、園内の二千五百平方メートルの保護区域。ナガバノイシモチソウはモウセンゴケ科の食虫植物。茎のように細長い葉に生えた腺毛から粘液を分泌し、昆虫を捕らえて養分を吸収する。このうち赤い花が咲く「赤花種」は豊橋市と豊明市だけで確認されている固有種。愛知教育大の研究グループが日本固有種であることを突き止め、二〇一三年に発表した。豊橋市の自生地では例年、六月下旬から十月の午前中に開花する。

温暖化などの影響で二三年ごろに花が三百株ほどまで減ったが、「豊橋湿原保護の会」のボランティアらによる植生回復作業を経て、現在は一万三千株ほどに回復。この継続的な保全活動も高く評価された。自

生地は一九九三年に市天然記念物に指定されている。

市文化財センター学芸員の贅元洋さん(左)は「特殊な環境でしか自生しない貴重な植物なので、指定をきっかけに多くの市民の方に関心を持ってほしい」と話している。浅井由崇市長も「かれんな赤い花を市民の皆さんに見てほしい」とコメントした。

自生地は普段入れないが、六、八日の午前九時半～十一時半に一般公開される。七日は学芸員らによる現地での解説も。六、八日は申し込み不要だが、七日は市文化財センターまで電話での申し込みが必要。同センター＝0532(56)6060

(昆野夏子)